

がんセンターだより

第 30 号

平成23年9月30日 発行

発行

埼玉県立がんセンター

発行責任者

病院長
田部 井 敏 夫

基本
理念

“唯惜命”

私達は生命の尊厳と倫理を重んじ、十分な医療情報提供と患者さんの自己決定権を尊重し博愛と奉仕の精神で医療を行います。

目次

- 骨盤臓器がんサワーボード紹介..... 1
- 前立腺がんPSA検診地域連携の取り組み..... 2
- 患者サロン『いこいの場』の紹介／病院薬剤師のお仕事..... 3
- 埼玉県民がんフォーラム開催される／第36回埼玉県民のためのがんの集い..... 4



埼玉県の
マスコット
コバトン

骨盤臓器がんサワーボード紹介



婦人科 科長兼部長
横田 治重

がんサワーボードとは、「手術、放射線療法及び化学療法に携わる専門的な知識及び技能を有する医師その他の専門を異にする医師等によるがん患者の症状、状態及び治療方針等を意見交換・共有・検討・確認等するためのカンファレンス」（厚生労働省：がん診療連携拠点病院の整備に関する指針）です。埼玉県立がんセンターを含む多くのがん診療病院では、臓器別の診療科が主体となつてがん患者さんの診療に当たっていますが、より広い視野からの知識や意見を集約することにより、よりよい医療を患者さんに提供しようというわけです。当院では主として臓器別に複数のがんサワーボードが活動していますが、今回は骨盤臓器がんサワーボードにつき紹介します。

骨盤内の悪性腫瘍としては、大腸・直腸など消化器のがん、尿管・膀胱など尿路系のがん、子宮頸／体がん・卵巣がんなど婦人科のがん等があります。それぞれ消化器外科・泌尿器科・婦人科が手術や化学療法（抗がん剤治療）を、放射線科が放射線治療を担当して診療を行うことが多いのですが、なかには診断の難しさから単独科では治療方針が立てにくい場合や、病気の広がりから複数科の領域にわたる切除や機能再建の手術が必要になることがあります。このような場合、従来は必要に応じて担当医同士が相談をしていたのですが、がんサワーボードの定期開催によってコミュニケーションをより活発かつ円滑に行えるようになってきました。骨盤ボードの中心メンバーは、上記の消化器外科・泌尿器科・婦人科の3科の医師ですが、放射線科・整形外科など他科の医師や看護師・検査技師・理学療法士などのスタッフも随時参加して広い視野からの議論が行われています。骨盤ボードの中心的議題は、このような個々の患者さんの診断や治療に関わるものですが、各科から骨盤悪性腫瘍の診療に共通するような話題提供や研究成果発表をして議論もしています。このようななかから、これまでに①碎石位（骨盤内悪性腫瘍手術でよく用いられる患者さんの体位）手術に伴う合併症の予防と診断・治療に関する指針、②術後深部静脈血栓症・肺塞栓症の予防と診断に関する指針をつくり病院全体で活用しつつあります。このような骨盤ボードは、月1回原則第4金曜日18時から19時に埼玉県立がんセンター東館2F TV会議室にて開催しています（具体的日時は当院HPに掲載）。今のところ患者さんやご家族の出席には対応しておりませんが、外部施設の医師・コメディカルスタッフの皆様のご参加を歓迎いたします。骨盤内悪性腫瘍の診療に興味をお持ちの皆様・症例や治療法に関して御相談希望の皆様、是非奮ってご参加ください。

詳しくは...

当院事務局医事・経営担当 048-722-1111(代表)または、
婦人科横田(hyokota@cancer-c.pref.saitama.jp)までご連絡ください。



前立腺がんPSA検診 地域連携の取り組み



泌尿器科 科長兼部長
影山 幸雄

高齢化、生活環境の変化により急増している前立腺がんですが、PSA（前立腺特異抗原）という血液検査で早期に診断することができます。欧米を中心にして行われた臨床試験の結果、PSAを用いた検診を行うと転移がんの割合が減り、前立腺がん死亡率が低下することが分かりました。これを受けて日本でも多くの自治体がPSA検診を住民健診に取り入れています。

PSAが異常値を示した場合、前立腺の一部を採取してがんの有無を調べる前立腺生検が行われます。がんが見つからなかった場合は、定期的にPSAを検査して経過をみることになります。当センターでも多くの地域医療機関からPSAが高値を示した患者さんをご紹介いただき、年間約200件の前立腺生検を行っています。がんが見つかるのは4割程度で、それ以外の方は経過をみることになります。PSAの異常でご紹介いただく方の数は年々増えており、がんが見つからなかった方への対応を当センターだけで行うのは困難になってきております。このためPSAが異常でありながら生検でがんが見つからなかった方の経過観察を地域医療機関の先生方をお願いする場合も増えています。

このような事情をふまえて、当センターと地域医療機関が連携してPSA検診およびその後の経過観察を円滑に行うための地域連携クリニカルパスを作成しました。既にPSA地域連携を軌道に乗せている北埼玉地区のクリニカルパスを参考にし、北里メディカルセンター病院、埼玉県立病院と共同で地域の医師会へ働きかけ、2010年8月よりPSA地域連携クリニカルパスの運用を開始しました。とりあえず桶川北本伊奈地区の医師会の先生方からご協力を仰ぎ、おかげさまで2011年5月の時点で12名の方が連携パスを活用されており、その後も徐々に増えてきています。

PSA地域連携クリニカルパス（図1）では半年ごとのPSA検査を行っていただき、一定基準を超えたら再度ご紹介いただくという簡単なものになっております。地域医療機関の先生方、患者さんに活用していただければと思います。ご要望があればクリニカルパスの用紙および運用基準をご用意いたしますので是非ご連絡ください。

前立腺がん検診連携パス・紹介状（診療情報提供書）		※様式以外でも使用できます	
患者氏名: 姓 名 年 月 日生 職業	病院再紹介基準 ①1年以内に初診時PSAの1.5倍以上の上昇 or 2年以内に初診時PSAの2倍以上の上昇 ②排尿障害の悪化、頻尿の出現など	連携パス開始2年後のPSA測定が終了したら最終判定のため必ず病院再紹介をお願いします。	
1次検診施設(紹介元) 診療所 医師 氏名 印	病院(紹介先) 泌尿器科 部 科 氏名 印	診療所 医師 氏名 印	
1次検診結果 PSA値は 年 月 日	生検 年 月 日	PSA値は 年 月 日	
抗血小細胞病抗体陽性結果 有・無	再検PSA (ng/ml) PSAD (ng/ml/cc) F/T比 ()	PSA値は 年 月 日	
紹介元記載欄 病歴及び治療経過	6ヵ月後: 年 月 日 1年後: 年 月 日 1年6ヵ月後: 年 月 日 2年後: 年 月 日	6ヵ月後: 年 月 日 1年後: 年 月 日 1年6ヵ月後: 年 月 日 2年後: 年 月 日	
現在の病状:	→ 病院再紹介(連携パス終了)		
備考(家族歴等):			

(図1) 前立腺がん検診連携パス・紹介状

えたら再度ご紹介いただくという簡単なものになっております。地域医療機関の先生方、患者さんに活用していただければと思います。ご要望があればクリニカルパスの用紙および運用基準をご用意いたしますので是非ご連絡ください。

● 連絡先

☎048-722-1111 (代表)
埼玉県立がんセンター泌尿器科
影山幸雄

患者サロン『いこいの場』の紹介



相談支援センターでは、患者サロン『いこいの場』を開催しております。『いこいの場』は、「病気のことは誰にも言えない」「家族にはつらい思いを言えない」「同じ病気の患者さんと話したい」という患者さんの声に応え、平成21年度から開催しています。この会に参加し、悩みや体験を語ることで少しでも気持ちが軽くなったり、患者さんやご家族の繋がりが深まるきっかけになればと思っています。

開催は毎月1回、1時間から1時間30分程度、対象者は当センター通院中の患者さんにご家族です。参加された方からのご意見をもとに、年3回内容に応じ専門家にお話しして頂く企画もしています。



参加した患者さんやご家族からは、「他の人の体験談を聞き参考になった」「不安や悩みを聞いてもらって落ち着いた」「自分の心を打ち明けることができた」「心のケアにととてもよいと思う」など参加してよかったなどの感想をいただいています。

今後も他職種と連携しながら情報提供できるよう内容の充実や患者サロン『いこいの場』に気軽に参加できるような運営方法を考えていきたいと思います。患者サロン『いこいの場』に参加し、がん友を作りましょう。ご参加をお待ちしております。



看護部 主任
小林 美智子

病院薬剤師のお仕事



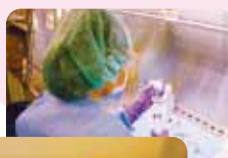
皆さんは、病院薬剤師のお仕事というどのようなことを想像されるでしょうか。狭い薬局の中で黙々と調剤している姿を想像されるでしょうか。確かに一昔前まではそうでした。でも、このごろは病院薬剤師のお仕事がいぶ変わってきているのです。基本的に外来のお薬は街の調剤薬局に任せ（これを院外処方と言います）、病院の薬剤師は入院患者さんのためのお仕事に特化してきています。皆さんの目の付くところでは、病棟のベッドサイドでの服薬指導がそれになりますね。その他目の付かないところでは、抗がん剤をはじめとする輸液の調製業務などは薬剤師が一手に行いつつありますし、麻薬や毒薬、向精神薬と言った法的に規制を受ける薬剤の病院内での円滑な管理業務などがあります。がんセンターという特殊性からこれらの薬品の使用量がとても多く、事故なく安全に使用できるように日夜努力しているのです。これからのお仕事としては、現在は医師が行っている業務のかなりの部分を薬剤師等が行うようになる（これをスキルミックスと言います）かもしれません。具体的には、薬剤師外来がありますが、近い将来継続的にお薬を服用している患者さんの経過は、薬剤師が副作用のチェックをしながら診ていくようになるかも知れませんね。



薬剤部 部長
武者 利樹



従来からのお仕事



現在主流のお仕事



これから主流になるお仕事

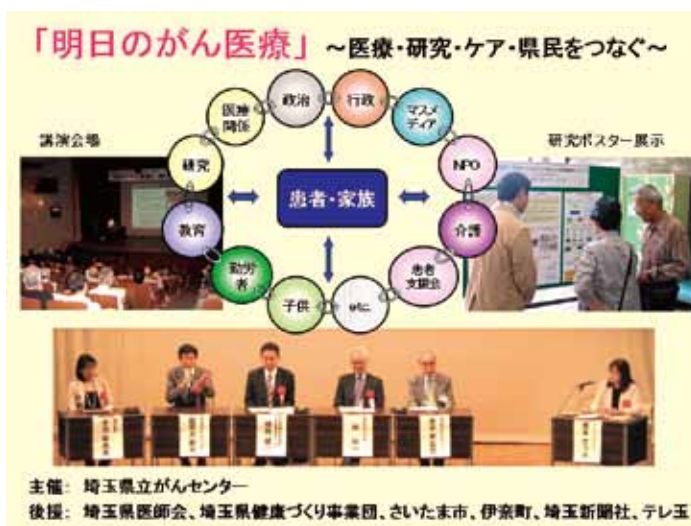


5月21日(土)、埼玉会館において「第2回埼玉県民がんフォーラム」を開催しました。このフォーラムは、当センター臨床腫瘍研究所が全国科学技術週間参加企画として、県民の皆様に研究内容や「がんについてのさまざまな話題」を提供し、医療・研究・ケア・県民をつなぐことを目標に昨年より開催しています。

今回は「明日のがん医療」というテーマで企画しました。はじめに、金子安比古研究所長が当研究所で実施している研究を紹介した後、①埴岡健一・日本医療政策機構・がん政策情報センター長の講演「大丈夫? 埼玉県のがん対策 ～ “ワースト地域” から脱出し、安心して住める街にかえていきましょう～」を中心に、②当がんセンター田部井敏夫病院長は「がん医療における拠点病院の役割」、③林 純一・筑波大学大学院教授は「明日のがん医療と研究所の存在意義」、④本田麻由美・読売新聞記者は「がん対策の推進と患者団体の役割」について講演しました。講演後は、参加者(206名)との間で活発な質疑応答がなされました。会場ロビーでは当研究所で実施している研究内容のポスター展示および説明を行いました。

埼玉県は高齢化のスピードが全国トップであり、近い将来には患者数の爆発的な増加が予測され、その対策は緊急性を伴うことが指摘されました。また、他県や各専門分野での取り組みも紹介され、埼玉県民自身がそれぞれの立場で行動し、連携していくことの必要性が述べられました。今回のフォーラムが、埼玉県のがん医療の現状の認識と、その改善への一助になることを願っております。皆様のご協力およびご支援に感謝いたします。

(フォーラム実行委員会・角 純子)



第36回 埼玉県民のための がんの集い

主 旨

当院では、一般県民の方を対象に最新のがん医療情報を提供すると同時に、様々な問題点を提示し、共に解決法を考えていただく場として、毎年「がんの集い」を開催しています。

●テーマ…「地域連携で取り組むがん医療」

開催日時 平成23年12月3日(土) 13:00～16:15

開催場所 埼玉県県民健康センター 大ホール(入場無料・事前申込み不要、定員500名)

後 援 埼玉県医師会 埼玉県健康づくり事業団

概 要 ●パネルディスカッション

パネリスト…がん治療体験者・地域の医師・拠点病院の医師・訪問看護師・薬局の薬剤師
テ - マ…「地域連携で取り組むがん医療」

●講演

演 者…垣添 忠生 氏(日本対がん協会会長、元国立がんセンター総長)
テ - マ…「わが国のがん対策 - 個人として、地域として、国として - 」



内容は変更となる場合があります。

